



# 栄小学校だより

令和3年12月6日(月) No.29

## ○12月に入りました！

気がつけば12月！少し前まで、「少し暑いくらいの秋」だったのに季節は「冬」、朝夕になると気温が下がって、マフラーや手袋が必要になってきました。日中も太陽が出ているといいのですが、曇りの日や日陰に入ると、冬の風が寒さを運んできます。コロナ禍の中で、制約が多い生活が続きますが、連日のニュースでは、新しい変異株の出現が報じられています。

「日々、自分たちができること」をしっかりと行って健康に留意したいものです。

令和3年も12月を残すのみとなりました。この1年の良かった所・悪かった所を考えて、この1年を振り返っていきましょう。

## ○人権デーについて

国連総会で「世界人権宣言」が採択された1948年(昭和23年)12月10日を記念して、12月10日が「人権デー」と定められました。日本では「人権デー」を最終日とする「12月4日～10日」を人権週間と定め、毎年各地で人権啓発活動を展開しています。

この機会に、一人一人の人権が守られるまち鈴鹿を、みんなでつくるために、改めて「人権」について考えましょう。

「みんなで築こう 人権の世紀 考えよう 相手の気持ち 育てよう 思いやりの心」

「新型コロナウイルス感染症を理由とした いじめ 偏見 誹謗中傷は しない させない 許さない お互いを思いやり 人権を尊重しましょう」

また、市役所1階市民ギャラリーにおいて、市内小中学校の子どもたちが人権問題啓発のために描いた、令和3年度「人権問題啓発ポスター展」を開催しております。

是非、ご覧ください。(展示期間:12月3日(金)～9日(木))

※ご覧になった方も多いかと思いますが、広報すずか(12月5日号)にて、  
＜特集「学ぶ人権 育むこころ」＞が掲載されています。  
ご家族で話し合う機会にさせていただきたいです。

※栄小学校では、今後も各学年で発達段階に応じた内容で、人権授業や道徳を中心とするすべての教科の中で、人権について学び合い、考えていく、問題解決学習に取り組んでいきます。

## ○インターネットトラブル防止教室！

12月3日(金)6限目に、5年生が鈴鹿市教育委員会事務局教育支援課の天野良平さんを講師に招いて、「インターネットトラブル防止教室」を開催しました。

学習内容は、「正しい情報モラルを身に付け、インターネット機能を使いこなしましょう」です。映像教材をもとに、携帯電話やゲームなどを正しく使用しないと、生活リズム・生活習慣がずれたり、成績が下がる恐れがあることを学びました。

5年生は、まちがった使い方や望ましい使い方などをしっかりと考え、発表していました。



# ○1年 2年 おもちゃづくり大会

12月3日(金)2限目3限目に1年生・2年生が合同で「おもちゃづくり大会」を行いました。

この授業は、2年生が1年生に自分たちで作れるおもちゃの作り方を紹介・指南し、実際1年生がそのおもちゃを作るというものです。2年生が7つのグループに分かれて、7種類のおもちゃを紹介し1年生が作成しました。この授業は、異学年交流の一環として昨年度より行っています。

2年生のみなさんは、作品紹介や、作り方のアドバイスなどをお兄さん・お姉さんとして立派に実行できたと思います。また、1年生のみなさんも2年生の話をよく聞いてしっかりと作品を作ることができました。

がんばって作った7つのおもちゃを大切にしてくださいね。

【おもちゃづくり大会でつくったおもちゃ】

「むすびぎにんぎょう」「しんぶんしロケット」「とことこにんぎょう」「ストローゆみや」

「かみコップロケット」「ぴよんぴよんがえる」「あつがみてっぼう」



## ☆特集 保護者に向けた「親塾シリーズ」No.8

### ほめて(言葉がけて)子どもの自己肯定感を上げる!

#### ○「ほめ方」しただいで効果が変わる

人はほめられると脳の神経が刺激され、ドーパミンが放出されることで強い幸福感に包まれます。「君ならやればできるよ」と言うと実際に成績が伸びることが実験で明らかになっています。このことを「ピグマリオン効果」と言います。

一方で、「おやみに子どもをほめると、実力の伴わないナルシストを育てることになりかねない」そうです。ただし、ほめることに効果がないわけではなく、大事なはその「ほめ方」だといえます。

#### <効果的に子どもをほめる方法>

##### 1 すぐにほめる

「即時確認の原理」という考え方で、ほめるにしても注意するにしても「即時」が大事だということです。やったことがすぐに認められるとうれしいのは、意識がいま、そこにあるからです。

##### 2 能力より、努力をほめる

「ほめ方」に関して、過去の実験で、「あなたは頭がいいのね」と言われたグループはその後の成績が下がり、「あなたはよくがんばったわね」と言われたグループは成績を伸ばす傾向があったとのことです。

また、「努力」より「能力」をほめられた子は、難題に直面したときにすぐにあきらめる傾向があり、成績へのプレッシャーから自分の成績に関してウソをつく傾向も高いことがわかりました。

一方、努力をほめられた子は、悪い成績をとっても自分の能力のせいではなく「努力が足りないからだ」と思い、難題に挑戦し続けるということもわかりました。

**※「努力をほめる」のがとても効果があります。**

##### 3 過去と現在を比べる

「子どもの成長を過去と現在で比較すれば、いくらでもほめるポイントが見つかる」といい、これを「垂直比較」と呼んでいます。自己肯定感を高めるためにも、その子自身の成長を垂直比較することが大切だといっています。決して、他人と比較してはいけません。